

ロードエスパー3D

一走行で、三次元の地中データを取得可能

ロードエスパー3Dは、空洞探査・地中設備の探査を行う新型レーダを搭載した路面下探査車です。一走行で三次元の地中データを取得し、効率よく作業ができます。また、GNSSを使用し、地図ソフトと連携させることで地図上での探査データを容易に確認できます。
 ※GNSS(Global Navigation satellite System / 全球測位衛星システム)は、GPS、GLONASS、Galileo、準天頂衛星(QZSS)等の衛星測位システムの総称です。

1号車



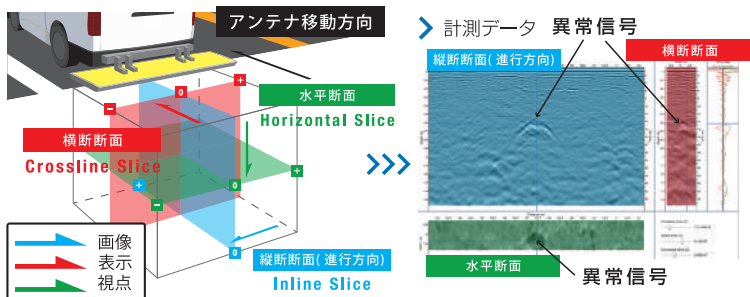
2号車



特長 1

探査作業の効率化と解析の精度向上を実現

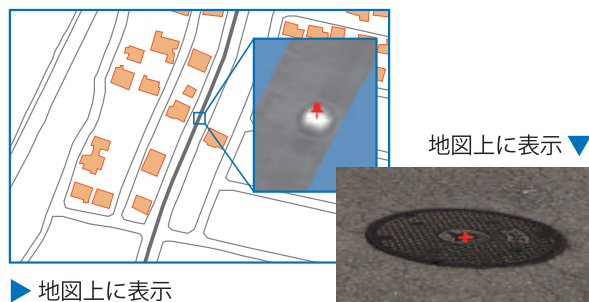
一度の走行で、縦断・横断・平面の三次元データの取得が可能です。その取得データは、高周波の高い分解能と低周波の深い探査深度を両立し、高密度化を実現しています。データの解析は、一面面で3つの方向から計測したデータを見ることが出来ます。



特長 2

位置特定精度の向上

GNSSを使って地図上に正確な位置を表示、さらにステレオカメラを使って画像上へ正確な位置を表示することが可能です。



特長 3

路面性状データを同時取得

三次元地中データと路面性状データを同時に取得することにより効率よく作業することが出来ます。路面性状データを取得し、「ひび割れ」「わだち掘れ」「IRI(平坦性)」について評価を行います。



ひび割れ評価

わだち掘れ評価

IRI(平坦性)評価(自動)

仕様

測定方法	電磁波レーダ方式(ステップパルス方式)	アンテナ寸法	1号車 800mm(L)×2,400mm(W)×140mm(H) 2号車 800mm(L)×2,100mm(W)×140mm(H)	
主な用途	地下埋設管探査、空洞探査、路面性状評価	備考	車両一体型 GNSSデータと探査データを地図ソフトへ連動表示可 路面性状評価システム搭載(2号車のみ)	
性能	<探査可能深度>			~1.5m程度
	<探査測線数>			1号車 28測線 2号車 24測線
	<探査速度>	50km/h 程度		